旅

三年

画数 10
筆順 方 㫃 旂 旅
オン リョ
クン たび

成り立ち

「旗ざおに旗がひるがえっている形」をあらわした字で、〝旗〟のいみをあらわす。〝旂〟と、「人びとがならんで歩いている形」をあらわした〝氏（仄→从）〟とを組み合わせて作った字です。

人びとが旗を先に立てて歩いているのは〝たび〟をすることをあらわしたものです。〝たび〟する人びとが、旗の後について行くのは、むかしも今もかわらないすがたです。

〔本義は、軍旗をおし立てて軍隊が行動することを表したもので、〝行軍〟の意味にも用いられ、〝軍団〟の名称に用いられている。周代では五百人の軍を〝旅〟と言った。近代では、二個連隊を〝旅団〟としている。〕

使い方

▽むかしの旅は、今の旅とちがって、ひじょうに大へんなものでしたから、旅に出る人は、水さかずきをかわして、のこる人たちとわかれたものでした。

▽一人の旅人が、オーバーをきて歩いていました。太陽と北風が、旅人のオーバーをぬがせるきょうそうをすることにしました。北風がいくらピューピューふいても、旅人はオーバーをぬぎませんでしたが、太陽がポカポカと旅人に日を当てると、旅人はオーバーをぬぎました。

熟語例

▽旅行（旅をすること。旅。「ぼくは、はじめて北海道に旅行しました」などというふうに、つかいます。）

▽旅客（旅人。とくに、汽車や飛行機にのって、旅をする人のことをいいます。「大がた旅客船クイーン・エリザベス号が横浜港に入港した」などというふうに、つかいます。）

▽旅館（旅人をとめる家。やどや）

▽旅費（旅をするのにかかる費用）

▽旅情（旅をする時の心情）

両

三年

画数 6
筆順 一 冂 冂 冂 両 両
オン リョウ
クン

成り立ち

かた方のさらに〝おもり〟をのせ、はんたいのさらにはかろうとするものをのせ、〝両方〟がつりあうようにしてはかる〝はかり（てんびん）〟の形をあらわした字で、「つりあいのとれた二つのもの（二つで一組になるもの）」をあらわした字です。例両親、両雄、両立。

「重さをはかるもの」ですから、〝重さのたんい〟にもつかわれ、また、お金も〝重さ〟ではかりましたので、〝お金のたんい〟にもつかわれました。わが国では、江戸時代に〝小判〟という金貨が〝一両〟、〝大判〟という金貨が〝十両〟でした。例千両箱、両替。

また、〝輌〟のかわりに、「五両の車両」というようにつかわれることもあります。

使い方

▽サッカーは両足だけで、手をつかうことのできないゲームですが、ゴールキーパーだけは両手をつかうことがゆるされています。

▽むかしの一両というお金は、今のお金にしたらなん万円にもあたるそうですから、千両箱一つはなん千万円ものかちがあったことになります。

熟語例

▽両手（左右二つの手）

▽両眼（左右二つの目）

▽両側（左側と右側）

▽両親（父親と母親）

▽両軍（敵軍とみかたの軍）

▽千両箱（一両小判が千まい入っている箱）

▽千両役者（役者は「いろいろな役をえんずる者」ということばで俳優のこと。かくしき高く、えんぎのすぐれた俳優のことをいいます。大スター）

▽車両（むかし、車輪が一つしかないものを〝車〟、左右にあるものを〝輌〟、合わせて〝車輌〟といいました。今では〝車両〟と書きます。）